

地域の将来を思い、活力にあふれる元気なまちへ

甲佐の魅力が広がるまちづくり

町では、空き家や自然などの地域の資源の有効活用を通して、移住・定住の促進や交流人口の増加を図り地域の活性化につなげていくため、さまざまな事業に取り組んでいます。7月31日(火)「甲佐町に

おける歴史的資源を活用した地域活性化および地方創生推進に関する連携協定」の締結により、本町の地域活性化に向けた事業や活動の輪がより一層広がっていくことが期待されます。

■地域活性化および地方創生推進に関する連携協定を6者で締結

7月31日(火) 町役場で、「甲佐町における歴史的資源を活用した地域活性化及び地方創生推進に関する連携協定」の締結式が行われました。



▲町役場で行われた連携協定式

同協定は、本町に存在する空き家や





甲佐町
奥名 克美 町長

平成20年をピークに国全体の人口が減少に転じ、甲佐町においても近年は人口の減少傾向が続いています。そこで、町は平成27年に「甲佐町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。「戦略」での政策目標の1つである「新しい『ひと』の流れによる交流人口の拡大と定住促進」を達成するために、空き家など地域の資源の有効活用を通して、移住・定住の促進や交流人口の増加を図り、地域の活性化につなげていくため、さまざまな

■ **空き家などの地域の資源を有効活用した町の地方創生**
自然などの地域の資源を活用し、街並み整備や観光振興などに関する取り組みを連携して行うことで、町の交流人口を増やし、地域活性化および地方創生の推進に寄与することを目的として、株式会社NOTE（藤原岳史代表取締役社長・兵庫県）、一般社団法人パレット（大滝祐輔代表理事）、医療法人谷田会谷田病院（谷田理一郎理事長）、株式会社肥後銀行（笠原慶久頭取）、甲佐町商工会（中村幸男会長）の6者で締結されました。

■ **旧西村民俗資料館を再生して本町の魅力を集めた拠点施設に**
その1つに、本町の魅力を集めた交流拠点施設を整備するため、旧西村民俗資料館利活用事業を実施しています。仁田子にある旧西村邸は、民俗資料館として利用していましたが、一昨年の熊本地震で被災しました。この事業では、昨年度は「甲佐町古民家こうさ



株式会社NOTE
藤原 岳史 代表取締役社長

事業に取り組んでいます。



- 交流人口の増加を促して地域の活性化を図る企画を考えた「甲佐町古民家こうさてんプロジェクト」
- スポーツを通じた本町の交流人口の増加、町全体の活性化を目的とする「緑川スポーツフェスタ in こうさ」
- 商店街の活性化や町内外をはじめとした若者などの交流などを目的とする「甲佐蚤（のみ）の市」
- 普段とは一風変わった楽しみ方でやな場の魅力を発信した「やな遊び2018夏」

■ **移住・定住を促進するために「甲佐町空き家バンク」を開設**
空き家などの既存の資源を活用し、移住・定住施策の充実を図るため、6月に「甲佐町空き家バンク」を制度化しました。この制度は、町内にある賃貸または売買ができる空き家や空き店舗などを所有者が物件登録して、本町

てんプロジェクト」と題して町内外の若者をはじめとする延べ200人でのワークショップ9回を開催し、同館を利活用するアイデアを企画しました。施設にはカフェやワークショップなどが開催可能なスペースを整備し、宿泊施設を備える予定です。今年度からはワークショップによる改修を実施し、2020年度に施設のオープンを目指しています。



一般社団法人パレット
大滝 祐輔 代表理事

への移住や町内での商業などの開業のために空き家などの利用を希望する皆さんに対して、登録した物件情報を町公式ウェブサイトなどで紹介する仕組みです。

このような取り組みを展開する中で迎えた今回の協定の締結に、奥名克美町長は、「町としても地方創生の総合戦略の一環として捉え、6者でともに連携を強化して展開していきたい」と話しました。

地域の将来を思い、活力にあふれる元気なまちへ

古民家再生で交流づくり

■甲佐町の地域資源、歴史的資源を宝物と捉えてまちづくりを

株式会社NOTE（兵庫県）は、日

本の歴史的建築物の価値最大化と活用における収益化を通じ、次世代へ継承することを基本理念に設立。兵庫県篠山市などでの空き家再生事業で数多くの実績があります。藤原代表取締役社長は「株式会社NOTEは、『空き家を活用してまちづくりをおこなっていただく』と生まれた会社です。今回、甲佐町の若手経営者の皆さんとお会いして正直感動しました。甲佐町の地域資源、歴史的資源もさることながら、地域自身が持っているコミュニティや繋がりを大事にしている町なんだと感じました。空き家を『負の遺産』としてではなく『地域の宝物』もしくは資源ととらえて、一緒にまちづくりを行っていきたい」と抱負を語りました。

ポーツや文化活動を通して町民が幸せを感じられるような地域づくりを推進することを目的に、4月に設立されました。また、同法人が中心となって6月に発足した「甲佐町まちづくり協議会」では、地域の古民家などを活用し



株式会社肥後銀行
荒川 浩二 執行役員地域振興部長

株式会社肥後銀行の荒川執行役員地域振興部長は「緑川ややな場などに人を呼び込むための仕組みなどで、地方創生のお手伝いをしていきたい」と話し、甲佐町商工会の中村会長は「商工業の皆さんに今回の協定についても説明しながら、商工業が興るようなことをやっていきたい」と話しました。



甲佐町商工会
中村 幸男 会長

▼旧西村民俗資料館の改修前の外観および内観（写真左）と改修後のイメージ図（同右）



■子どもから高齢者までの人づくりで地域活性化

一般社団法人パレットは、本町の交流人口の増加による地域経済の循環を通じた持続可能なまちづくりおよびス

た農泊推進事業などに取り組み、地域資源を活用した地域活性化を実現するための活動を行っていきます。大滝代表理事は「子どもたちから高齢者まで、スポーツや文化活動を通して人づくりおよび地域づくりを行っていききたい。熊本地震で被害を受けた甲佐町の民間からも創造的復興ができれば」と抱負を話しました。

■地域活性化に向けて広がる活動の輪

医療法人谷田会谷田病院の谷田理事



医療法人谷田会谷田病院
谷田 理一郎 理事長

奥名町長は、「今回の提携を機に、さらなる本町の地域活性化に向けて活動の輪が広がっていくことを大いに期待しています」と話しました。

長は「甲佐の健康寿命を伸ばすには、色んな人とのつながりやコミュニケーションが大事。町の皆さんが気軽に相談できるまちの保健室のようなものができれば」と話しました。



▲甲佐町住まいるの復興拠点施設の完成後のイメージ図。図の右側手前は災害公営住宅、子育て支援住宅は左側奥の3階建ての建物

子育て支援住宅は来年夏に完成予定

熊本地震からの創造的な復興や本町の活性化のシンボルとして

●震災からの復興拠点として本町の発展を目指す

町では、将来を見据えさらなる発展を目指す指針として策定された「甲佐町震災復興計画」に基づき、震災からの創造的復興や町活性化のシンボルとして、甲佐地区に災害公営住宅、子育て支援住宅および防災公園などの一体的な整備を進めています。

8月9日（木）、子育て支援住宅の建設について、業者と契約を締結しました。

●住戸数20戸、子育てサロンとして集會室を建設

子育て支援住宅の構造は、鉄筋コンクリート造、地上3階建て、建築面積が841・24平方メートル。住戸数が2LDK 20戸、子育てサロンとして集會室を建設します。

住戸別の床面積は、75・85平方メートルタイプと73・88平方メートルタイプがあります。

プライバシーを十分に確保しながら、子育て世代同士の

交流を促し、立ち話など気軽にできる広い玄関土間や共用廊下を備えます。1階エレベーターに隣接した集會室は開放的な出入り口により立ち寄りやすい空間、畳の小あがりスペースを設け、小さな子どもや学校帰りの児童・生徒などが過ごしやすいような空間となります。

●各部屋を見通しができる位置にキッチンを設置

部屋の特徴は、カウンター形式のキッチンから玄関および各部屋を見通しができることで子どもの見守りができます。部屋の間仕切りは可動式で、必要に応じて続き間にできるなど使い勝手の良い設計となっています。

子育て支援住宅は、来年夏の完成を予定しています。入居時期や募集要項などは、決まり次第お知らせします。

▼お問い合わせ先
町建設課

☎096・234・1183
(内線161・162)